

患者・市民参画（PPI）の現状と展望

2022.10.13がん対策推進協議会

帝京大学医学部緩和医療学講座
有賀悦子



earuga@med.teikyo-u.ac.jp

Patient and Public Involvement (患者・市民参画, 以下PPI)

Patient and Public Involvement (PPI) means actively working in partnership with patients and members of the public to plan, manage, design and carry out research. It is “Research being carried out ‘with’ or ‘by’ members of the public rather than ‘to’, ‘about’ or ‘for’ them”

(National Institute for Health Research. (NIHR), UK)

PPIとは、患者や市民と共に計画、管理、デザイン、研究の遂行をパートナーとして実行していくことを意味する。医療者のためではなく、市民とともに、市民によって実施される。

PPIとは、「患者やその家族、市民の方々の経験や知見・想いを積極的に将来の治療やケアの研究開発、医療の運営などのために活かしていこうとする取り組み」のこと (PPI-japan)

Involvement (参画)

計画段階からデザイン、管理、評価、普及までパートナーとして関わる

Engagement

医療者が意見を聴き、反映させる、終了後、結果や知識を社会と共有する等

Participation (参加)

名前が入っている、傍聴する、被検者になる

患者の経験が、医療サービス、研究や創薬の計画、開発、提供の中心でなければいけない

国内の患者・市民参画の動き

- 医療機関における研究倫理審査会審議における市民の参加
- 厚生労働省審議会等に委員、構成員として参画
- 製薬における患者の声を反映させた医薬品開発を目的にタスクフォースの立ち上げ (日本製薬工業協会, 2017)
- AMED : 2017年臨床研究等におけるPPIに関する動向調査の実施、2019年度公募から研究開発提案書にPPIについて記載を求める。
- PMDA : 2017年患者参画WG設置。患者向け広報、患者活動とPMDAの関り方に関するガイダンス作成等を目的としている。
- 都道府県医療計画策定時に患者・住民の意見を反映させること (厚労省, 2015)
- 特定機能病院医療安全義務に関する外部監査委員会委員には市民等含む外部委員が50%以上で構成されること (厚労省, 2015)
- 国立がん研究センターがん対策情報センター 2008年から患者・市民パネル (委員100名) によるコンテンツレビューや改善の実施 2

がん対策推進基本計画（平成30年3月 閣議決定）

4. (1) がん研究

(現状・課題) P.69

治験、臨床試験に関する計画立案の段階から、**研修を受けた患者**が参画することによって、患者視点のアウトカムの提案や、患者のリクルートの適正化等をより高い精度で進めていくことの必要性が指摘されている。

(取り組むべき施策) P.70

国は、**患者の声を取り入れながら**、がん罹患後の社会生活に関する研究や、中長期的な後遺症に対する診療ガイドラインを作成するための研究など、**サバイバーシップ研究を推進**する。

国は、治験をはじめとした**臨床研究の情報を医療従事者や国民にわかりやすく提供**するとともに、関係団体等と連携し、**治療開発を一層推進**する。

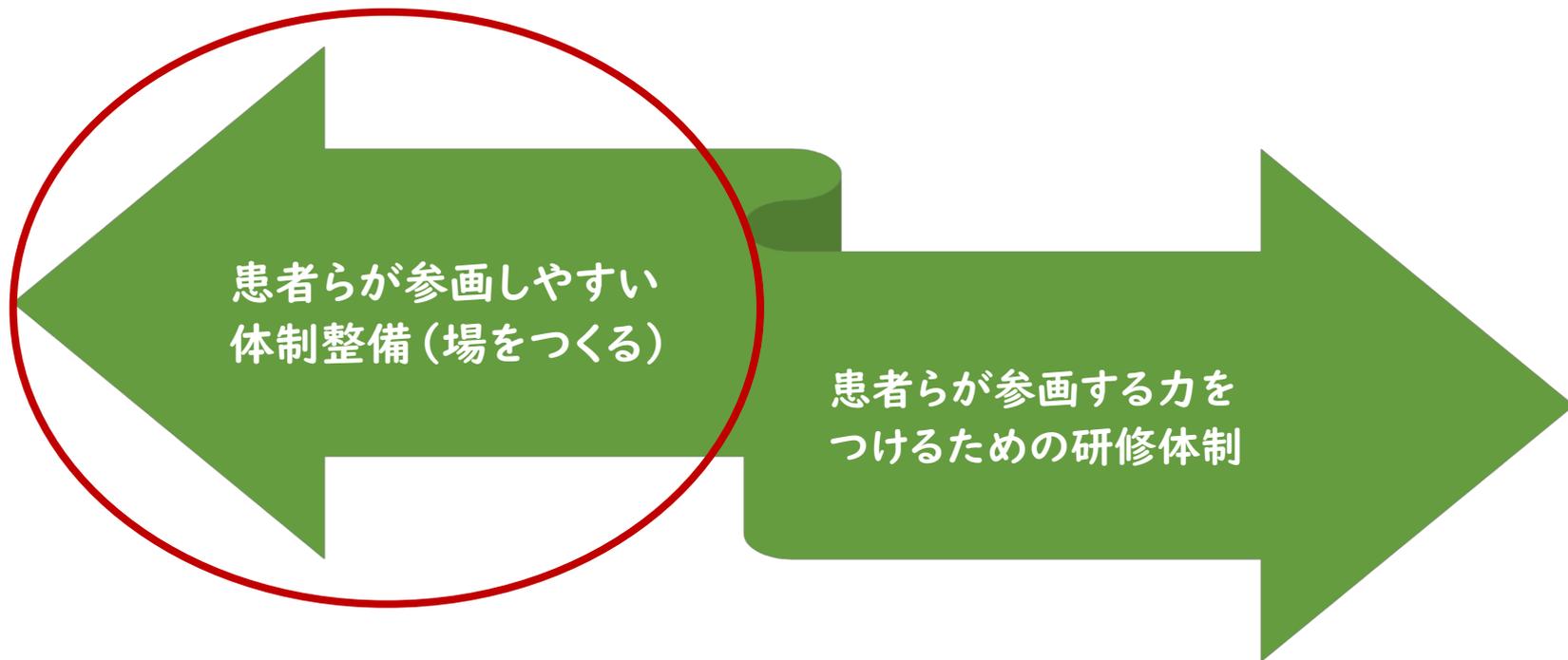
AMEDは、海外の研究体制と同様、我が国でも**患者やがん経験者が研究のデザインや評価に参画できる体制を構築**するため、平成30(2018)年度より、**患者及びがん経験者の参画によって、がん研究を推進するための取組を開始**する。また、**国は、研究の計画立案と評価に参画可能な患者を教育するためのプログラムの策定を開始**する。

(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000196975.pdf>)

AMED (青字) : 患者らが研究に参画できる体制を構築

国 (赤字) : 参画可能な患者を教育するプログラムを策定

PPIを推進するために必要なこと



国内の患者・市民参画の動き

- 医療機関における研究倫理審査会審議における市民の参加
- 厚生労働省審議会等に委員、構成員として参画
- 製薬における患者の声を反映させた医薬品開発を目的にタスクフォースの立ち上げ（日本製薬工業協会, 2017）
- AMED：2017年臨床研究等におけるPPIに関する動向調査の実施、2019年度公募から研究開発提案書にPPIについて記載を求める。**
- PMDA：2017年患者参画WG設置。患者向け広報、患者活動とPMDAの関り方に関するガイダンス作成等を目的としている。
- 都道府県医療計画策定時に患者・住民の意見を反映させること（厚労省, 2015）
- 特定機能病院医療安全義務に関する外部監査委員会委員には市民等含む外部委員が50%以上で構成されること（厚労省, 2015）
- 国立がん研究センターがん対策情報センター 2008年から患者・市民パネル（委員100名）によるコンテンツレビューや改善の実施

AMED

健康・医療戦略推進法などに基づき、1200億円を超え、2022年度はさらに175億円の医療研究開発費として予算化された国内最大の公的事業。

医薬品、医療機器・ヘルスケア、再生・細胞医療・遺伝子治療等の6の統合プロジェクトの開発から実用化まで一貫した研究開発を行っている。

研究における患者・市民の関与の重要性

- 患者・市民にとって実効性がある有益な研究
 - 国民への有効な啓発活動
- （臨床研究等における患者・市民参画に関する動向調査より）

AMED 研究開発提案書

具体的なPPI実施計画の記述・PPI担当者の選任

- 研究・試験のどの段階でどのように患者・市民の知見を取り入れるか
- 患者・市民の選考方法
- 利益相反と謝礼
- 守秘義務の方針
- 参加者へのフィードバック方法
- 最終年度のレビュー方針
- PPIの取り組みを研究コミュニティにどのように共有・発信するかについて

PPIと研究者の視点の対比と課題（海外報告）

フレームワーク	患者・市民の視点	研究者の視点
PPI開始	時々、自分の意見が代表的なものなのか疑問をもった。	PPIコラボレーションとして、どのような人に参加してもらおうかが大変重要だった。
相互関係の構築	医学的知識、語彙が少なく、研究に不慣れであることから、研究者の中で気後れしてしまう心配。	研究グループで、各人が自信を持つことができる雰囲気作り。全ての参加者が作業プロセスにおいて、対等で重要な役割を果たしていることを強調。
共同学習プロセス	時間が経つにつれ、自信を持ち、さらに学ぶ意欲が感じられるようになってきた。	各ミーティングで、医療者でなくても理解できるよう特定の分野には講義を含めるようにした。
再評価とフィードバック	議論は時々、感情的な問題を引き起こした。	コラボレーション（参画）は特別な努力、時間、忍耐が必要だった。

PPIの課題

■ 研究目的に焦点を維持することが困難な場合がある

- 患者・市民は、自分の病気や家族や友人としての体験を話し続ける傾向
- 研究者は、研究の優先順位が高い課題に話を戻したい

対応例

- 患者・市民のがん研究に関するスキルアップ、公益的態度トレーニング
- 研究者と患者・市民と別々のミーティングを持つ
- 研究者が、患者・市民に適切に反応できるような能力向上

■ 医学用語の理解

■ 患者の病状の進行

■ 患者・市民の積極性・自信・気後れ

■ 患者・市民の偏在への配慮（年齢、民族、経済的優位性、年齢や性差による発言の傾向）

対応：患者・市民の多様な人選を行う

Health Expectations. 2019, 22 (1), 3-20.



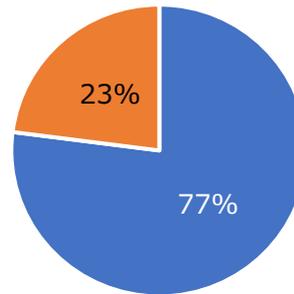
The 4 parts of the framework	PPI perspective	Researcher perspective
PPI initiation	Sometimes doubted the representativeness of own opinions	Selection of individuals for the PPI collaboration was crucial
Building reciprocal relationships	Lack of medical knowledge, vocabulary, and research Fear of ending up in a position of inferiority among the researchers	Creating a confident atmosphere in the group Emphasizing that all participants have equally important roles in the work process
Co-learning process	With time they felt increasingly confident and motivated to learn more	Each meeting included a lecture about a certain research field that could be understood by laymen
Re-assessment and feedback	The discussions sometimes induced emotionality	The collaboration required special efforts, time, and patience

Schandl A, et al. Act Onco. 2022 Mar;61(3):371-377 .

日本癌治療学会 PPIに関する意識調査

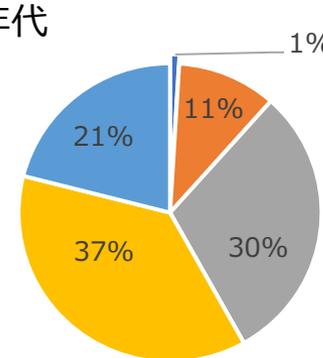
回答者の属性

性別



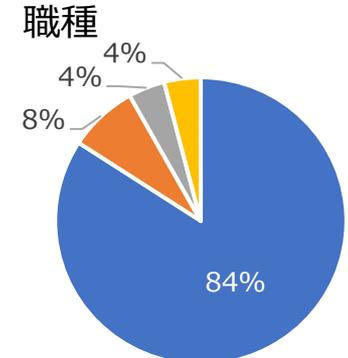
■ 男性 ■ 女性

年代



■ 20代 ■ 30代
■ 40代 ■ 50代

職種



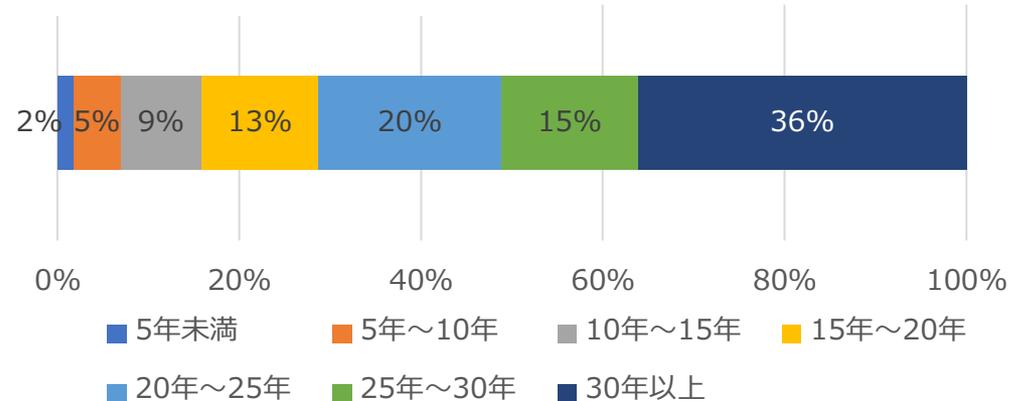
■ 医師 ■ 薬剤師
■ 看護師 ■ その他

方法 会員MLを用いたWeb調査
調査期間 2022/8/30~9/9
回答数 518
回収率 3.1%

専門領域

回答者の専門領域は会員における分布とほぼ同じであったが、基礎医学のみ、会員数126のうち回答者は0名だった。

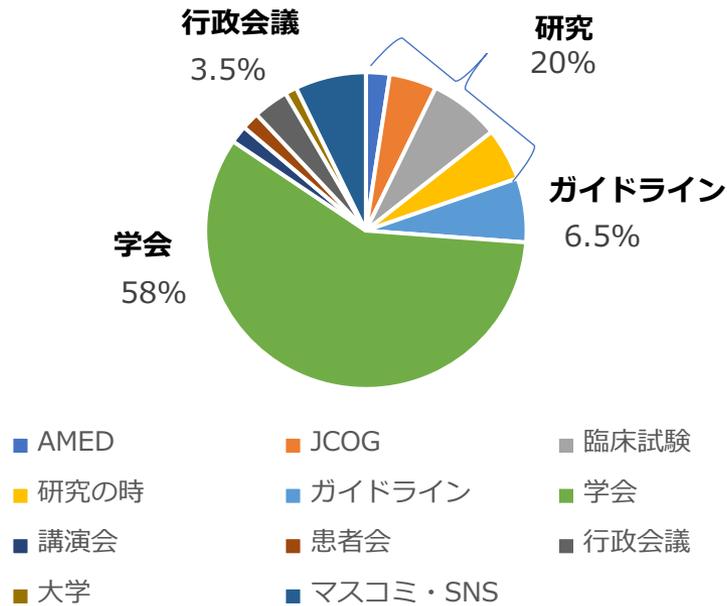
医療職としての経験年数



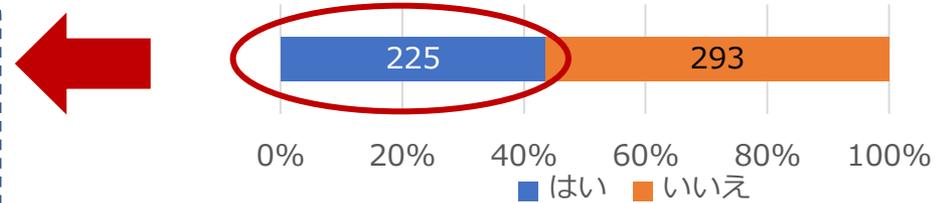
回答者の属性は、研究に従事する40～50代が多い。
学会全体に外科系臨床医が多いが、看護、薬学、PTなどメディカルスタッフも含まれる。
基礎医学に所属する会員の回答はなく、今回の結果に反映されていない。

PPIの認識：どの程度知っていますか？

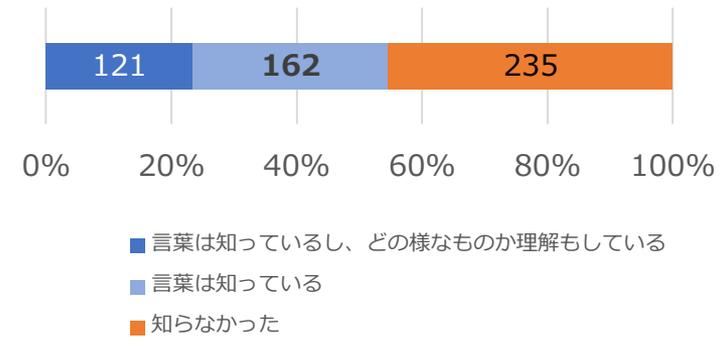
どのような場面で聞きましたか？



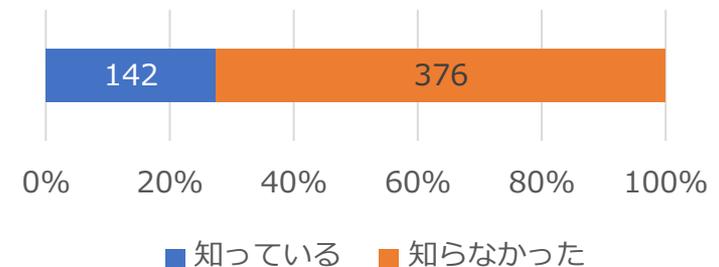
1. 患者・市民参画を聞いたことがある



2. 患者・市民参画を知っていますか



3. 第3期がん対策推進基本計画に、2018年度からAMEDは、患者・市民参画によってがん研究を推進することについて明記されていることを知っていましたか



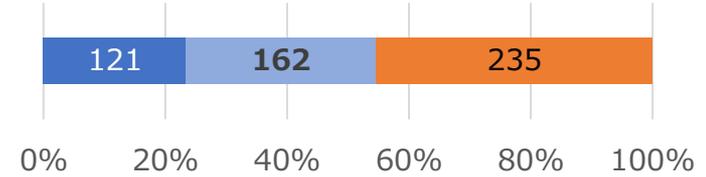
n= 518

PPI認識の3群別の自由記載におけるテキストマイニング

- 1, 知らなかった
- 2, 言葉は知っている
- 3, 言葉もどのようなものかも理解している

2. 患者・市民参画を知っていますか

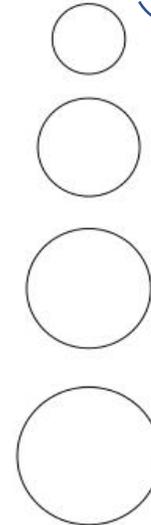
n = 518



Degree:

- 1
- 2
- 3

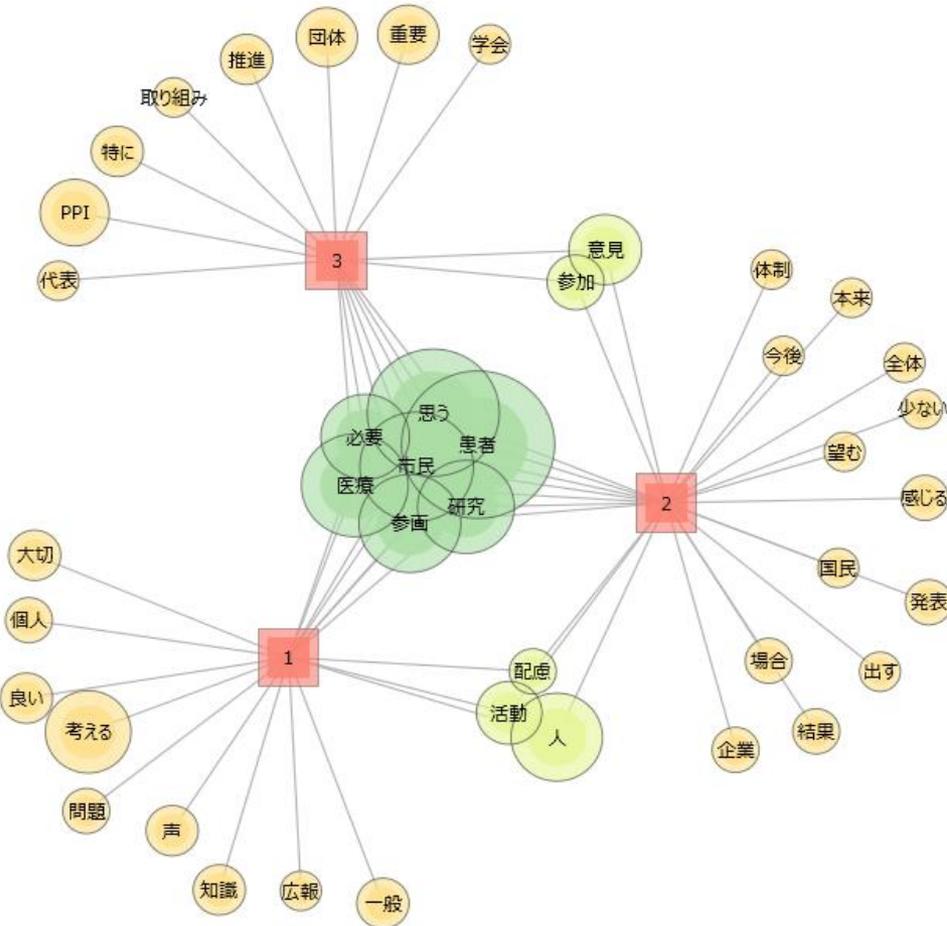
Frequency:



設問の3群別に自由記載をJaccard係数で抽出

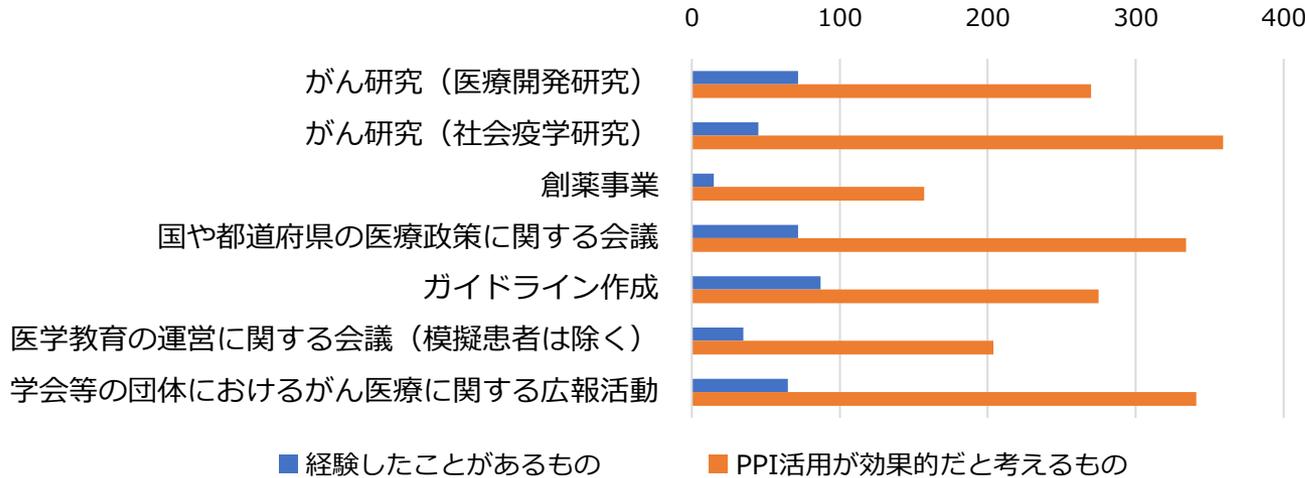
1 PPIを知らなかった人は、「考える」が多い
3知っているし理解もしている人は、「重要」「団体」「推進」といった単語を認める。

中央に共通の単語として緑（患者、市民の研究参画が必要と考えている）、PPIを知らない人は懐疑的意見もあるが、理解している人ほど、PPIは重要で、医療者がPPIの定義やメリットを理解することや団体や学会がイニシアチブを取って取り組んでいくことも重要だと考えている。3の人は、経験的に参画者の発言が必ずしも代表性があるとは限らないと述べたものが含まれており、今後の課題として挙げられる。



がん医療においてPPIの経験がある領域と参画が効果的だと考える領域

n= 518 (複数回答あり)



がん研究では社会疫学研究 (含むがん教育等) への着目、政策医療や普及啓発への一層の参画に期待が大きい。

創薬について、企業との関係性には慎重になるべきとの自由記載が複数認められた。

ドラッグ・デバイスラグ解消へPPIが関わることに期待されているが、直上の理由から創薬事業より、政策提言から取り組むべきとの意見があった。

PPIに関して学会に望むこと

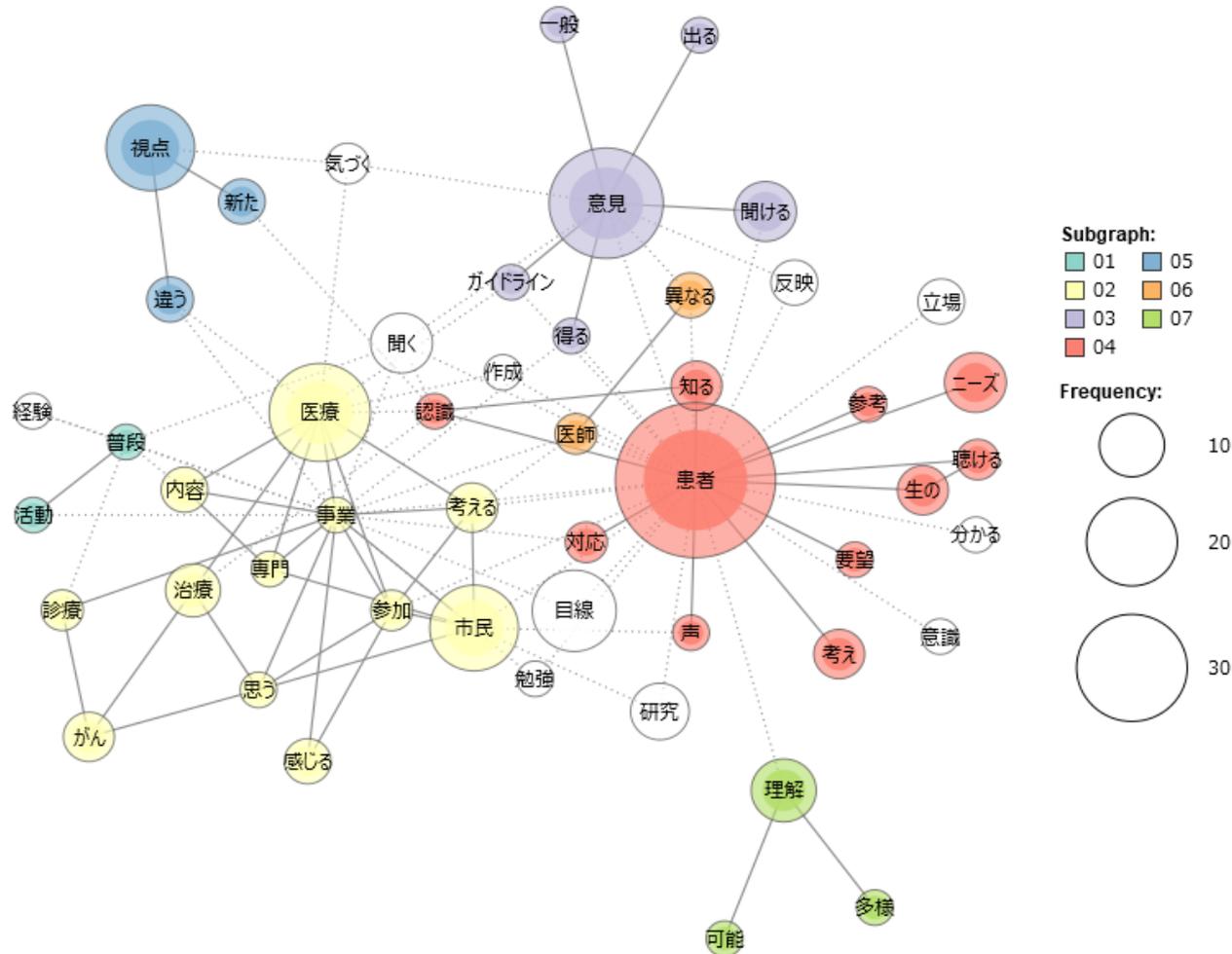
n= 518 (複数回答あり)



PPIに関する「国への働きかけ」と回答したものの自由記載の意見 (抜粋)

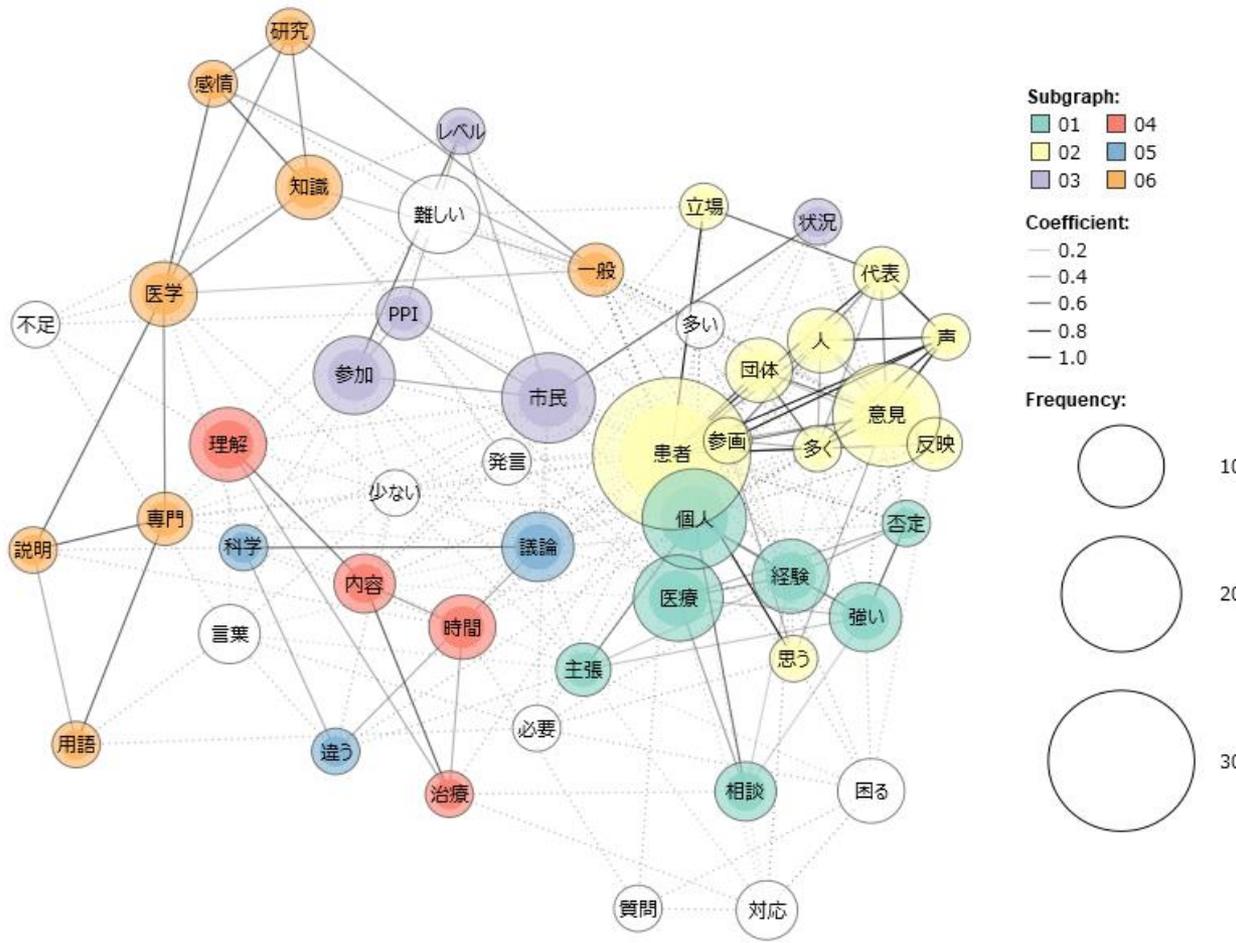
- ・国のいっそうのPPI推進・広報
- ・がん対策への取り込み
- ・医療行政へPPIを広げる
- ・ロビイング活動の窓口設置
- ・PPIをAMEDの必須要件とする
- ・介入研究、創薬試験などのプロトコールへのPPI必須化
- ・経済的な支援 (予算確保)
- ・国主導のコンセンサス会議

患者・市民参画でよかったこと：自由記載のテキストマイニング



「患者」を中心に、「ニーズ」、「生の声」、「考え」、「知る」などの強い関連が認められる。サブグラフでまとめると「新たな視点を得られる」、「異なる意見が聞ける」、「多様性の理解を可能にする」などが上がり、それらは、「がん医療、治療、診療、研究において、患者や市民の考えを知り、感じることができた」ことに関連している。

患者・市民参画で困ったこと：自由記載のテキストマイニング



困ること

- ・大きいサブグラフ「患者」（黄色）は、“患者＝代表－人－声－意見”のつながりから、一部の患者の声があたかも患者代表の声のように反映されることを示している。
- ・緑のサブグラフは、患者の「個人」の経験の主張であっても医療者は否定しがたく、医療相談ではないので困ることなどを示している。

難しいこと

- ・感情を含んだ発言への対処（オレンジ）
- ・多様性（レベル）を取りまとめること（紫）はサブグラフにおいて関連性を認めた。

- ・「医学」「知識」「研究」「専門」「用語」（オレンジ）の不足は参画を難しくし、（赤）（青）と関連して、議論に時間がかかったり、科学的な議論が難しいことに繋がっている。



課題への対応

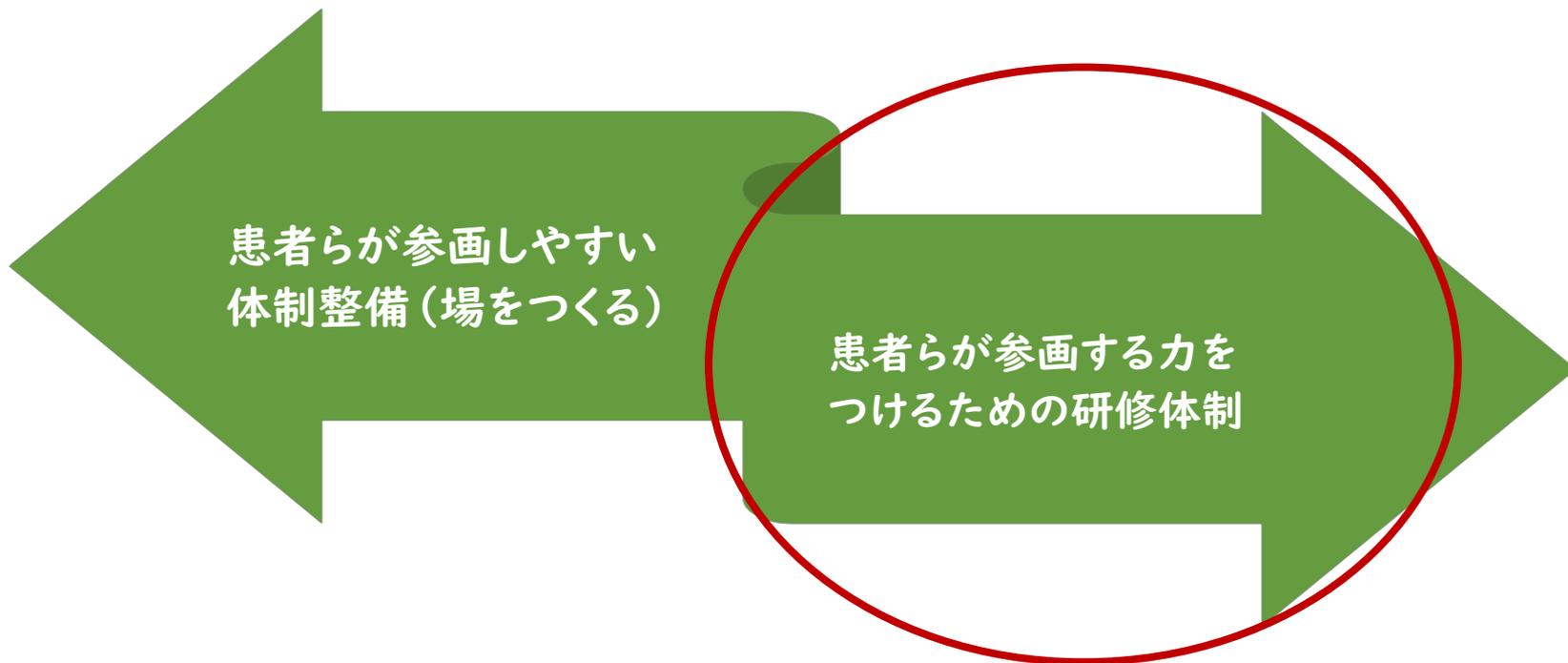
PPI体制

- ・複数の多様な患者・市民で組織する
- 患者・市民への研修**
 - ・公益的発言
 - ・コミュニケーションスキル
 - ・チームビルディング
 - ・がん医療、研究に関する研修

医療者への研修

- ・参画者を尊重し、それぞれの力を引き出せる
- ・ファシリテーション力の向上
- ・組織マネジメント
- ・チームビルディング
- ・医療・研究を分かり易く説明できる

PPIを推進するために必要なこと



PPIに関する教育研修の問題とその対策方略

患者・市民 ⇒ 医療・参画を学ぶ必要

医療者 ⇒ 共働を学ぶ必要
(パートナーシップ)

患者・市民に対する研修の場

- PPI専門性の高い団体 (がん・非がん)
PPI Japan
- 医療者の患者支援団体のプログラム
キャンサーネットジャパン
- 学術団体の学術集会等におけるプログラム
日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会
日本肺癌学会、日本サイコオンコロジー学会
日本サポーターケア学会、日本緩和医療学会
- 患者団体によるプログラム
全国がん患者団体連合会
ヘルスケア関連団体ネットワークの会 (VHO-net)
ささえあい医療人権センター (COML)
- 製薬協によるプログラム

- どのような人材であれば、がん研究に参画できるのか描かれたものがない



求められるコンピテンシー (能力) の明確化

- それぞれの団体がその時の話題でプログラムを構成している。



体系的カリキュラムの必要性

- 様々な団体による研修



研修の多様性の尊重と質の維持

- 一つ一つの研修の質が不明



研修プログラムの評価
研修方法の評価

- 研修を受けたものの活用路が不確定
(研究者と患者・市民をマッチングするシステムがない)



活躍の場を想定したカリキュラム開発

がん研究に患者・市民参画を実現するための 患者・市民に対する教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

研究代表者：有賀悦子

研究体制

研究代表者：（有賀） 事業の計画立案と統合研究総括

1) カリキュラムWG：

初版作成 : 研究分担者、研究協力者全員（統括：有賀）

コード改定 : 江口、有賀、片山、三森、勝俣、大滝(医学教育)、桜井(PPI)（研究分担者）
山口(統計)、眞島(PPI)、樋口(PPI・若手)（研究協力者）

2) 専門研修プログラム管理WG：片山、江口(JSCO)、三森(JCA)、勝俣(JSMO)、桜井(PPI・JCA)
（研究分担者） 佐々木(JSCO)、西森(JSMO)、眞島(PPI・JCA)（研究協力者）

3) 基礎研修プログラムWG：渡邊、桜井(PPI)（研究分担者） 佐々木、眞島(PPI)、樋口(PPI・若手)（研究協力者） 資材開発：全員協力

4) 評価WG : 片山(疫学)、片野田(疫学)、大滝(医学教育)、桜井(PPI)（研究分担者）
西森、山口(統計) 眞島(PPI)（研究協力者）

研究協力者：樋口 麻衣子（39・若手）富山AYA世代がん患者会Colors代表

眞島 喜幸 パンキャンジャパン理事長/JCA協働委員会委員/WECAN (Masterclass) 在籍中

佐々木治一郎 北里大学/JSCO 患者関連PALプログラムWG委員長

西森 久和 岡山大学/JSMO ペイシエント・アドボケイト・プログラム関連部会委員

山口 拓洋 東北大学大学院医学統計学分野

WG：ワーキンググループ PPI：患者参画 JSCO：日本癌治療学会 JCA：日本癌学会 JSMO：日本臨床腫瘍学会
WECAN：Workgroup of European Cancer Patient Advocacy Networks

アウトカムとコンピテンシーを踏まえた本研究の目的と戦略

Etsuko Aruga: Teikyo University School of Medicine

アウトカム 修了者が到達すべき目標、人物像
コンピテンシー (能力・資質) 知識、技能だけではなく、成果につながる行動特性を含めた大きな意味での能力

活躍の場

研究の目的

がん研究に参画する患者・市民の効果的な教育方法の開発。がん研究に参画することができる患者・市民とはどのような人材か、育成目標を明示し、それを実現させるための体系的教育カリキュラムを策定。終了後持続可能な体制を団体と共働し3～5年以内に構築。

・アウトカム
・能力・資質

カリキュラム
WG

改定

改定

基礎研修
プログラムWG

改定

改定

専門研修
プログラムWG

改定

改定

評価WG

・カリキュラム・プログラム評価
・受講者評価方法の評価

JSCO/JSMO/JCA

全がん連

エンドユーザー
患者・市民の受講者

・受講単位管理

他学会/民間団体/
自治体など

成果物作成後、具体的条件
整理し協力を依頼する予定
・カリキュラム活用など

基礎骨格作成後、具体的条件整理し
依頼予定

・基礎研修プログラム受講・
評価調査協力
・講師、助言者の推薦など

・参画到達水準レベル
・到達確認方法（チェックテストや形成的評価）
・実施団体によるセルフチェック評価の適正性

JSCO：日本癌治療学会

JCA：日本癌学会

JSMO：日本臨床腫瘍学会

全がん連：全国がん患者団体連合会

PPI教育カリキュラム（研究班Vol.prel） - 1

				Level 1	Level 2
	目標 (アウトカム)	能力・資質 (コンピテンシー)		知っている。 双方向性の講義に参加できる。	模擬的または事例検討等を通してどう行うかを 考えられる。研究者の支援を受けながら研究に 参画することができる。
参画	患者・市民参画において求められている役割を、コミュニケーション・スキルを活用して研究チームや会議体と良好な関係を築き、チームの一員として役割を果たす	1 患者・市民の参画を実践できる	<ul style="list-style-type: none"> 患者・市民参画について概説できる 参画と参加・協力の違いを述べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 患者・市民参画について概説できる 参画と参加・協力の違いを述べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 公益的役割を模擬的に実践できる 科学を学び、知りたいという意欲を示すことができる
		2 チーム内での役割を意識し、協力できる	<ul style="list-style-type: none"> 皆が等しく守るべき事柄を挙げることができる（発言マナー、時間を守る、適切なメンバーに報告・相談を行うなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 皆が等しく守るべき事柄を挙げることができる（発言マナー、時間を守る、適切なメンバーに報告・相談を行うなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の場で守るべき事柄を実践できる 会議の検討課題を理解し、時間内に議論を終えることができるよう共働できる 資料は事前に読み、意見をまとめておくことができる
		3 建設的な意見交換に、コミュニケーション・スキルを活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> 建設的な意見交換に、コミュニケーション・スキルを活用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションにおける基本を説明できる 	<ul style="list-style-type: none"> 他者を尊重し、自らの意見をわかりやすく積極的に述べることができる（アサーション）
倫理・法規	医療倫理と利益相反、法規の基本的な事項について活用できる	1 医療倫理・研究倫理の基本的な事項を活用できる	<ul style="list-style-type: none"> 医療倫理・研究倫理の基本的な事項を列挙できる 被検者（臨床）や動物（基礎）の保護、被検者の利益、不利益について要点を列挙できる 医療安全や意見の衝突への対応が重要であることを概説できる 	<ul style="list-style-type: none"> 医療倫理・研究倫理・インフォームドコンセントの要点を列挙できる 被検者（臨床）や動物（基礎）の保護、被検者の利益、不利益について要点を列挙できる 医療安全や意見の衝突への対応が重要であることを概説できる 	<ul style="list-style-type: none"> がん研究の過去事例、模擬事例を通して、どのように適応されているか、問題点は何か、挙げることができる 基本的な事項を踏まえて議論できる
		2 利益相反、個人情報の基本的な事項を活用できる	<ul style="list-style-type: none"> 利益相反、個人情報の基本的な事項について要点を列挙できる 	<ul style="list-style-type: none"> 利益相反、個人情報の基本的な事項について要点を列挙できる 	<ul style="list-style-type: none"> がん研究の過去事例、模擬事例を通して、どのように適応されているか、問題点は何か、挙げることができる 基本的な事項を踏まえて議論できる
		3 がん対策基本法、薬機法、薬事法、がん登録法、健康保険法（診療報酬、保険適応内外）、介護保険法の要点を概説できる	<ul style="list-style-type: none"> その他の法規について、自分で調べる方法を述べる 法規の策定に至った簡単な背景、法規の要点を概説できる 	<ul style="list-style-type: none"> その他の法規について、自分で調べる方法を述べる 法規の策定に至った簡単な背景、法規の要点を概説できる 	<ul style="list-style-type: none"> がん医療を取り巻く事例を通してどのように適応されているか例を挙げる、問題点を挙げる 基本的な事項を踏まえて議論できる
腫瘍・社会医学	入門的な腫瘍学や社会医学について自ら必要な学習計画を立てて学び、その知識を研究事例に適応させることができる	1 腫瘍学の入門的知識を活用することができる	<ul style="list-style-type: none"> 用語集、WebラーニングやWebサイト、図書等を用いて入門的な腫瘍学・社会医学について、自ら学習計画を立て実行できる 	<ul style="list-style-type: none"> 用語集、WebラーニングやWebサイト、図書等を用いて入門的な腫瘍学・社会医学について、自ら学習計画を立て実行できる 	<ul style="list-style-type: none"> がん研究に関連する腫瘍学や社会医学（ヘルスサイエンス）の特定の領域について講義を受講し、知識を説明できる。 研究論文や研究事例における背景、方法、結果、考察について、医療者とともに知識を適応させることができる 医療の質と経済性の検討は、社会的課題解決に重要であることを述べる
		2 社会医学の入門的知識を活用することができる			

PPI教育カリキュラム（研究班Vol.prel）-2

研究	がん研究の目的から成果の活用まで基本的な一連の過程を把握しその一部に参画できる	1 なぜ研究が必要なのか目的を述べることができる	・一般的な研究の意義、種類について説明できる	・研究事例において、目的を抽出し、そのゴールについて議論することができる
		2 研究計画と流れを説明できる	・研究計画書、研究倫理委員会審査、研究費獲得、文献レビューについて用語を調べることができる	・研究の構造、流れ、研究チームの構成について説明できる
		3 研究方法、デザインについて、質問できる	・代表的な研究方法、デザインの例を挙げることができる	・研究論文や研究事例がどのような研究方法、デザインを用いているか、抽出し、疑問に感じたことを質問できる
		4 研究結果の取り扱いについて説明できる	・関連する用語について調べることができる	・研究結果をまとめるまでのプロセスと監査が必要であることを概説できる
		5 研究成果の公表と活用（学会発表、論文・報告書、社会への公表、啓発）について説明することができる	・成果公表の方法を列挙できる	・過去の事例や模擬事例において研究成果がどのように活用されているか概説できる ・事例を用いて、成果を社会に広げるための方略を議論できる
		6 基礎研究、臨床研究、社会医学的研究のいずれかの研究に参画することができる	・学会発表の種類、抄録、査読、医学論文の種類と構造に関する用語を調べることができる	・学会発表の種類、抄録、査読、医学論文の種類と構造について概説できる ・模擬または実際にいずれかの方法を実践する (例 学会の患者支援プログラムでポスター発表する)
		基礎研究、臨床研究、社会医学的研究から1つ以上選択し、研修を受講完了することができる		
EB	EBMやガイドラインがどのように研究などの意思決定に活用されているか述べることができる	1 がん研究で得られた科学的根拠がどのように意思決定にもちられるか説明できる	EBMについて概説を聞き、要約できる	・EBMはどのような場面の意思決定に用いられるか例を挙げることができる ・意思決定や社会的決断にEBMが用いられた事例を通して議論できる
		2 ガイドラインについて説明できる	ガイドラインの目的、構造を説明できる ガイドラインを臨床事例に適応させるプロセスを説明できる	・代表的なデータベースを用いて検索を体験する ・ガイドラインを用いた模擬臨床事例（患者背景、診療環境など含む）の治療を決定等を体験し、議論できる
		3 情報リテラシーの重要性を説明できる	情報の確からしさを高める方法を列挙できる	・インターネットや図書を用いた医療情報の活用方法を示すことができる
統計	疫学・医療統計がどのようにがん研究などに適応されているか述べることができる	1 医療統計が、研究や公開された文章にどのように用いられるか例を挙げることができる	データ解析や統計手法の用語を列挙し、調べることができる	・データ解析や統計手法がどのように結果を導き出していかを体験し、議論することができる。 ・研究論文や行政報告書などにおいて、用いられている手法を抽出できる

PPI教育カリキュラム（単位）選択型 研修の例

次期研修目標

修了コード

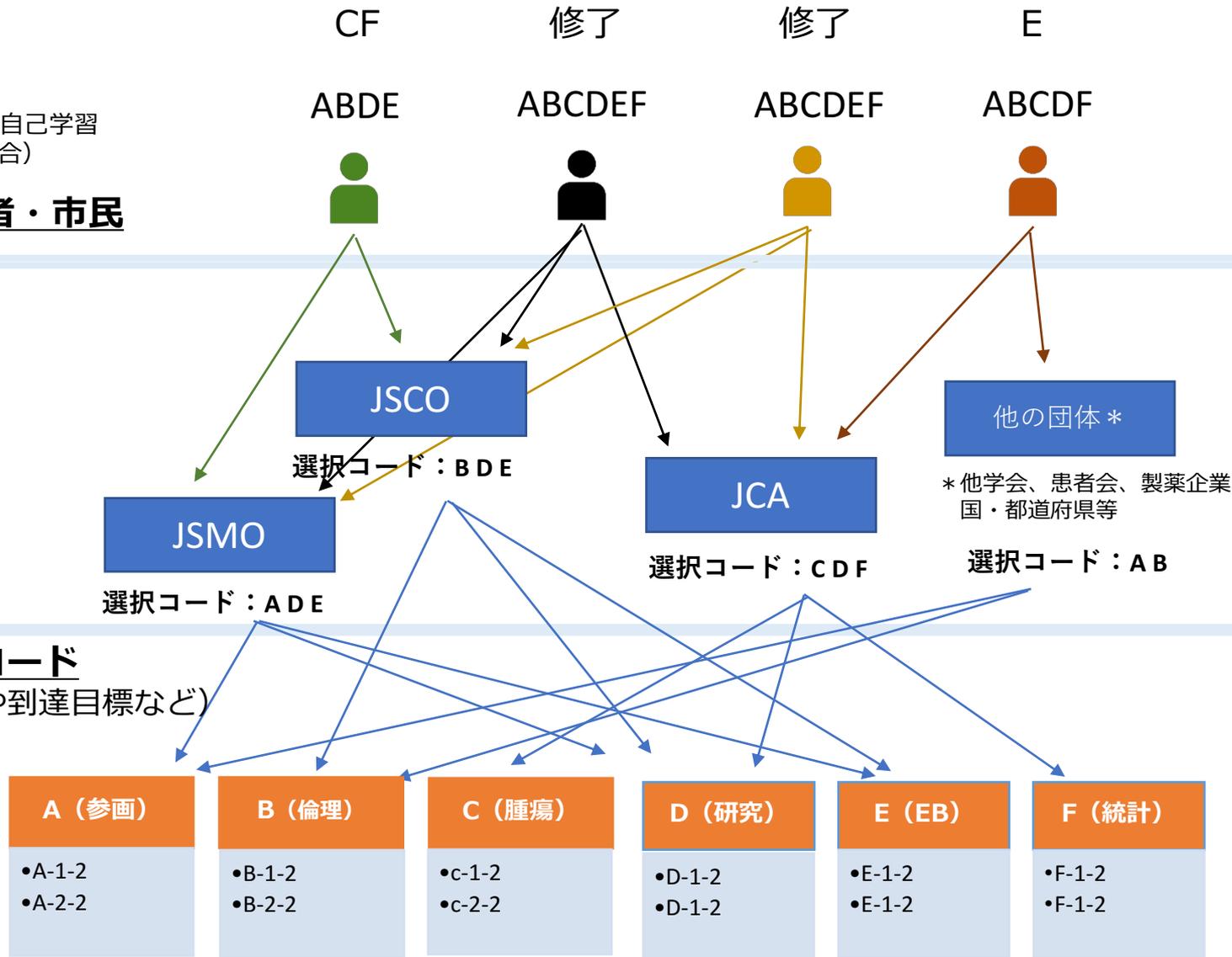
(基礎研修プログラム自己学習
到達クイズ完了の場合)

研修参加の患者・市民

研修開催者

カリキュラムコード

(コンピテンシーや到達目標など)



基礎研修プログラム：Lwvel1をすべてWeb-ラーニング
研修での選択またはオンライン自己学習可

今後PPIを推進するために

- ・ PPIの領域を広げる

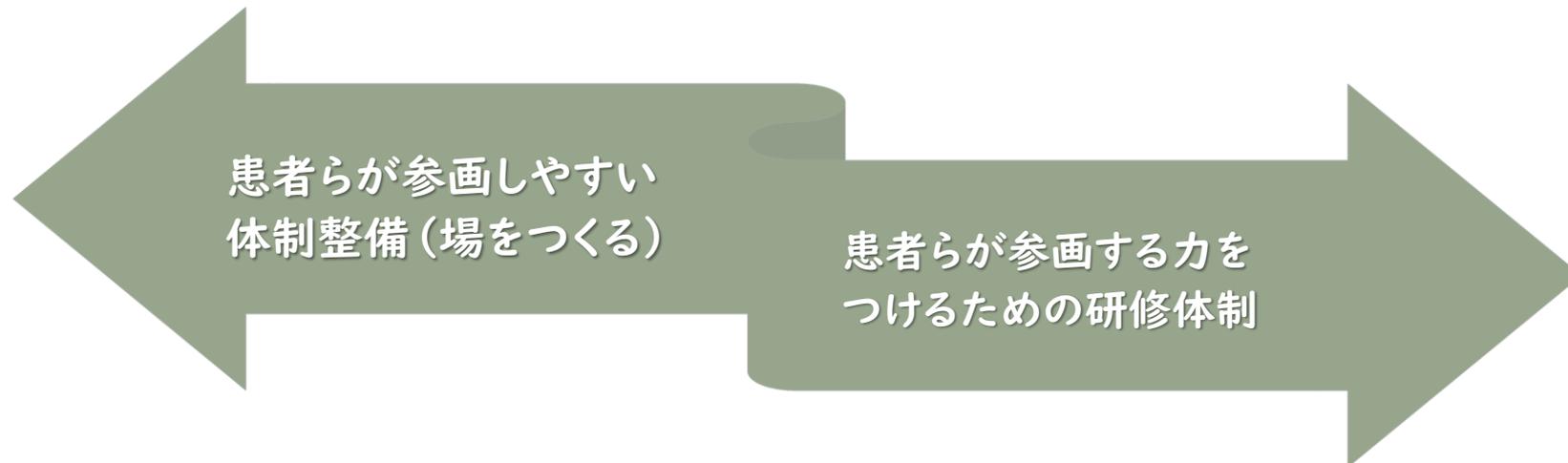
がん研究：臨床研究から、基礎研究、社会医学（社会疫学）研究まで広く強調

政策提言：都道府県協議会等への参画

トランスレーショナル研究、普及啓発、デバイス・ドラッグラグ

普及啓発への参画

- ・ 患者・市民は、研修を受けて参画することが望ましい



患者らが参画しやすい
体制整備(場をつくる)

患者らが参画する力を
つけるための研修体制

- ・ 患者・市民に対する研修
- ・ 医療者・研究者らに対する研修と支援